

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	スナップ
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 11 : 69 - 71
Issue Date	1982-12-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045128
Right	
Relation	



○ちよ(四才)・ふかし(六才)・かよ(小二)
 〇「かし」「もー、ちよなんかと絶交だもんね」
 ちよ 「イーダノ」
 S 「絶交って何？」
 〇「かし」「知らんぷりすることだよ」
 (S・54・4・20)

〇みんなで、夕食を食べている。二年生の女の子が、あそびあそびでなかなか食べない。
 S 「だめじゃあ、ないですか。かよさん食べなくっちゃって、いつも、せつちゃん、学校で、言っているんだよ」

ふかし「いばってる。いけないんだよ。女はいばっちゃ」
 S 「どうして、いばっちゃいけないの？」

ふかし「男が、いばるの」(S・54・5月)

〇階段のところで、遊んでいる。

かよ 「そんなところで、とんだり、急いだりしたら、オダブツよ」

ふかし「えっ？オダブツ？オダブツじゃないよ。しりもちって、いうんだよ」

かよ 「だから、そういうの、オダブツっていうのよ」

ふかし「しりもちだよ。だって、デ、デ、デーデンデンって、おっこちるんだろう」
 (S・54・6・24)

〇「トラのパンツはシマシマパンツ、はいても、はいても、またぬげるー、みんなも、わたしも：」
 〇「かし」「へっ、わたしもって、カヨちゃんも

「そうなの」
 かよ 「ちがうけど、わたしじゃなくても、わたしじゃない、わたしのことをいうの」
 (S・54・6・24)

〇ちよ(五才)・ふかし(小二)・かよ(小三)
 かよ 「ふーちゃん、それ、いいの？おにいさんとして」

ふかし「ああ、おにいさんとして、いいんだ」
 ちよ 「そうだよ。チヨも妹として」
 (S・56・1・3)

〇ちよ(六才)・ふかし(小二)・かよ(小四)
 〇「かし」「節ちゃん、ぼくんち、来たっけ」
 ちよ 「きたよ」

ふかし「ああーそういえばね。節ちゃんのおじさんと一緒に来たっけね」

かよ 「節ちゃんのおじさんじゃないんだよ。だんなさんなんだよ」

ふかし「ちがうね。節ちゃんのおじさんだね」
 かよ 「おじさんじゃないの、わかんないんだなあ、ふーちゃんて」

ふかし「だってよ。オトコの人で、おじさんじゃないか」
 (S・56・4・26)

〇近くの公園に遊びに行く。親せきの子が帰るから、一度、家に帰りましょう、というところから、
 〇「かし」「一とおおね。でも、いちおおって、いつも、いちおおじゃなくなっちゃうんだよ」
 と、ぶつぶつ。
 (S・56・8・5)

〇いとこたちを連れて、公園に行く。ふかしが、先頭にたって歩く。
 〇「かし」「さ、ならんで、ならんで、ダメ、ちゃんとして」
 ちよ 「あ、ふーちゃんは、出ているじゃん。列から：」

ふかし「ぼくは、いいの、ちよって、いやだな。ぼくはね。みんなをならばせているんだからね。たいへんでね。一れつになれないの」(S・56・8・15)

〇おさいふのおみやげをおばあちゃんにもらって、大ニコニコ。おばあちゃんが、「ご縁があるように」と言って五円ずつ、さいふに入れてあげると、
 かよ 「おばあちゃん、ごえんってなあに？」
 〇「そうねエ：へ：とわらうと」

かよ 「そうか、いいことなんだ。大人のいいことかな？」(S・56・12・6)

〇得意そうに、なめねこのカードを見せる。運転免許証のようになっていて、それには「死ぬまで有効」とかいてある。
 〇「かし」「これ、死ぬまで、行こうなんだよ」
 (S・56・12・6)

〇折よく、友人が、いちごをもってきてくれた。我が家には、兄夫婦と子どもたちが来ていて、大にぎわい。いちごを出すと、
 かよ 「ねえ、下鳥さんて、いいものをもってきてくれたね」
 〇「かし」「そうだね。こういうの気がきいてる

スナップ

っていうんだね」(S・57・3・22)

○ちよ「節ちゃん、前は、こんなにスマートだったのに、よくふとったねえ」

かよ「ふとったんじゃないよね。赤ちゃんが、いるんだよね」

ちよ「だって、おばあちゃんと同じになっ
たよ」(おばあちゃんもふとっている)

かよ「ぜんぜん、ちがうでしょ」

ふかし「こうやってね。じゃって、きって、
(おなかを切るまねをする) ポンて、
赤ちゃんが、とび出すとね。もとにも
どるんだよね」

ちよ「でも、ずいぶん、ふとっちゃってね
え： 節ちゃん、赤ちゃんっていった
って：：」

(S・57・3・22)

○ハワイへ旅行に行つて、ハナウマ海岸で、
母親が日本人、父親が米国人の子どもに会っ
た。顔は、父親ゆずりの顔で、どう見ても、
米国人に見えるが、ことばは、全く日本のこ
どもと変わらない。二人で、砂山をつくりな
がら遊んでいると、ふんふんと楽しそうに鼻
歌をうたっている。

S「ねえ、何、うたっているの？」

C「ぼくね、なんとなく、うたったの。」

S「なんとなく、何って曲？」

C「ぼくのうたはね、気分なの。」
○あんまり日本語が上手なので、
S「ずいぶん、日本語上手ね」
C「ぼく、英語もしゃべれるよ」
S「ちよっと、しゃべってみて」

話してくれた英語は、日本語まじりである。
S「日本語も入っているじゃない？」
C「みんな英語だよこれ」
とすましている。確かにイントネーション
は、英語そのものであった。

— 四才男子 (S・56・4・2) —

○旅先で、知り合った、ほりあつしくん。

S「あっちゃん、五才なら、もうすぐ六
才で、それから学校ね」

あつし「うん、ぼく、学校きらいだよ」

S「どうして？」
あつし「だって、勉強しなくちゃいけないし
それやだもん」

母親「この子は、絵をかいいたりするのが得
意なんですよ」

S「絵だつてかくよ。学校って」
あつし「やなの絵だつて、学校にいくと、
勉強になっちゃうから」

○黄色のかわいい手袋をしている。手のひら
のところをこげて、白くとけています。

S「あら、いい手袋ね」
「うん」と、手をひらひらさせている。白
くなつたのを、母親が、見て。

母親「あら、どうしたのそこ？」
あつし「ちよっと、ね。ストープのところ
こうしていたらね」

母親「あら、まあ、いやだ、あっちゃん。
知らなかったわー。きのう、おろした
ばかりなのに」
ふんと、窓の外をながめ、小さい声で、

あつし「だから、ぼく、ちよっと、いやだつ
たのに、おばちゃん、おせっかいだよ」

— 五才男子 (S・55・12・28) —

○M「うちのママがね」

C「ママだつてよ」
M「ママだつて、いっちゃんいけないの。」
「べつに」

C「でもな：ママだつてよ、おまえ、なんて
いう」

S「おかあさん」

C「おまえは？」
K「もち、おかあさん」

C「おまえは？」
I「えっとね。ママとパパ」

M「わたしはね。オヤジだつていうよ」
一斉に「えっ／＼オヤジ」

M「そう、だつて、おねえちゃんなんか、
いってるから、いつのまにか、身についで
きちゃつたのよ」

— 三年生男女 (S・56・10月) —

○けんかするときにつかうことばを書いてもら
った。

「まっぴら、書いてやったぜ」
と、原稿用紙をはずに構えて出す。

— 三年生男子 (S・56・4月) —

○犬をからかっている子がいる。

T「そんな、犬をかまっちゃ、ダメじゃない」
C「かまってるよ。かわいがっているんだ
よ。かわいがってやろうじゃねえかの、か

スナップ

わいがるだよ」

— 三年生男子 (S・56・4月) —

○おかあさんの絵を子どもに書いてもらった。

N「先生、かけた」

T「あら、すてきね。じゃ、洋服かいて、色もぬってね」

N「えっ、ぬれねえよ。じゃ、先生、男色の服にするよ。おかあさんには、悪いけど」

— 三年生男子 (S・56・4・22) —

○A「先生、さっき肉マンの話したでしょ」

T「うん」

A「この間、おとうさんが、夜、買ってきてくれたの。それで、食べたらね」

T「おいしかったでしょ」

A「おいしかったけど、ちょっと、大人の味がしたよ」

— 三年生女子 (S・56・4・25) —

○S「私たち、二年生のとき、理科の時間に、

先生、ジュースのんだよ」

T「そう」

A「さいわい、わたしは、その時、ダイコンだったから、だめだったの」

— 三年生女子 (S・56・7・7) —

○学級会のとき

M「今、意見を出さないで、あとで、後悔しても、しらないわよ」

H「こわい」

T「こうかいて、何？」

M「バカ、知るわけないじゃん」

C「わかってないのに」

M「わかってる人だっているんだから、わかってよ、かんじで」

○学級会が、大変うるさい。

M「せいしゅくにせいでういみよ」

H「せいしゅくにせいでういみよ」

M「せいしゅくにせいでういみよ」

— 三年生男子 (S・56・9・2) —

○徒競走のあとで

C1「ね、大ちゃん、久保ちゃんより、速かったんだよ」

C2「おかしいな」

C1「だけど、でもさ、久保ちゃんが、無神経に走っていたとも、考えられるしな」

C2「大ちゃんより、途中、急に、おそくなるとも考えられる」

T「そうね」

C2「まあな、いずれにしてもだ。大ちゃんが速かったんだよ」

— 三年生男子 (S・56・10月中旬) —

○H「おまえ、何年？」

C1「ねずみ」

H「フーン、ねずみ」

H「おまえは？」

C2「いのしし」

H「おまえ」

C3「わたしも、いのしし」

C4「オレ、ねずみ」

H「だろ、みんなわかっているのに。先生の

年だけ、行方不明なあ……」

— 三年生男子 (S・56・10月) —

○I「うちのおねえちゃんね。昼間ねて、夜勉強するの。そういうたちの」

T「たち？」

I「たちって、ね。そんな、くせってことかな」

— 三年生女子 (S・56・10月末) —

○教材に、「大造じいさんとガン」「源じい

さんの竹とんぼ」と、続いた。

やない「おっ、またしても、じいさん。じいさんシリーズパートII」

— 五年生男子 (S・54・秋) —

以下二つは相模原・大野北小・堀江教諭報告

○とっ組合いのけんかが始まった。そこへ登校してきたN君、少々あきれ顔で

N「朝ばらから、まあ、さっそうと、けんかしてるよ」

早速の言い誤まりなのか、なるほど、派手なけんかではあった。

— 二年生男子 (S・56・9月) —

○授業中にとりあげたキューブを、帰りの時本人に返すとき。

T「これから、絶対もってこないって、約束してね」

C1「うん、絶対もってこない。命にかかわる」

C2「命にかかわるって言うの」

— 二年生男子 (S・56・10月) —